

緑のしるべ

～夏号～

令和5年7月

茨城県県南農林事務所
稲敷地域農業改良普及センター

稲敷市江戸崎甲541

TEL 029 (892) 2934

FAX 029 (892) 6684

E-mail inanofu@pref.ibaraki.lg.jp

HP



稲敷地域れんこん生産者研修会を開催しました



事例発表



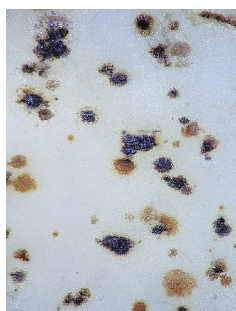
出荷調製場視察

令和4年11月2日、れんこん産地の発展と経営体の更なる所得向上を目的に、規模拡大をテーマにした研修会を開催し、生産者と関係機関合わせて107名が参加しました。普及センターが試算した規模拡大経営シミュレーションの結果を説明するとともに、雇用確保や規模拡大に取り組む「株式会社高木農園」と「株式会社れんこん三兄弟」の2経営体が事例発表を行いました。また、ドローンと自動給水機を紹介するとともに、作業効率を改善した出荷調製場を視察しました。

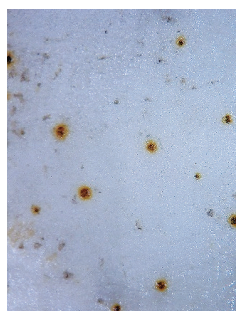
れんこん黒皮症の発生初期の判別について

れんこん産地で被害の拡大が心配される黒皮症は、発生初期に被害を把握して、有効な対策を取ることで被害を抑制することができます。発生初期の被害を認識するには、黒点（黒皮症による点）と皮点（通常ある点）の見分けや、発生初期でも出やすい部位を確認することが重要です。

また、普及センターでは黒皮症の診断を行っていますので、希望の場合は御相談ください。



黒点がある表皮



健全な表皮

【黒皮症を初期に判別するポイント】

- ①皮点と異なり、黒皮症の被害は触ると凹みを感じる。
- ②黒皮症の被害はれんこんの上側より下側で大きい。
下側を重点的に観察する。
- ③黒皮症の被害は1節目の根付近で見られやすい。
1節目付近を重点的に観察する。

水稻の斑点米カメムシ類の防除対策

茨城県では斑点米カメムシ類による斑点米の発生が、等級格下げの主要因となっています。近年、特に斑点米カメムシ類の一種である「イネカメムシ（図1～3）」が、茨城県をはじめ全国的に発生増加の傾向にあり、県南地域でも優占種となっています。

高品質米生産のために、適期を逃さない防除を心がけましょう。

●水田周辺の除草管理

水田周辺のイネ科雑草は、カメムシ類の生息場所となるため除草に努めましょう。ただし、出穂期間際の除草はカメムシ類を水田内へ追い込むことになるため、出穂の2週間前までに終わらせましょう。

●薬剤防除（図4）

不稔被害の軽減には出穂期～穂揃期、斑点米被害の軽減には乳熟期（出穂後10～15日頃）に薬剤による防除を行いましょう。発生量が多い場合には、2回散布も検討してください。



図1 イネカメムシ成虫



図2 イネカメムシ幼虫

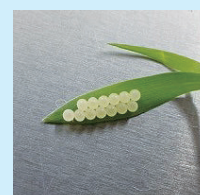


図3 イネカメムシ卵塊

	7月			8月			9月
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬
イネの生育	幼穂形成期	穂ばらみ期		出穂期～穂揃期	乳熟期		成熟期
防除の適期	畦畔・ほ場内の除草 除草は出穂2週間前までに！			成虫の防除 出穂期～穂揃期に水田内で見かけたら実施する	幼虫の防除	基本は乳熟期の防除で斑点米を防ぐ！	

図4 イネの生育ステージと防除適期（5月上旬移植のコシヒカリの場合）

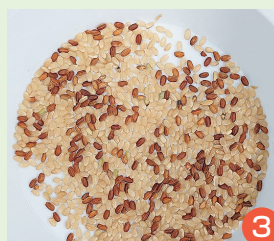
難防除雑草「雑草イネ」が発生しています！

雑草イネとは栽培品種とは異なる「イネ」の総称で、以下のような特性・問題が挙げられます。

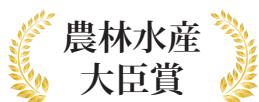
特性	引き起こされる問題
脱粒性が高く、成熟後すぐに籾が落ちる。	コンバインに入りづらく、ほ場にまん延している場合がある。まん延ほ場では肥料成分が収奪されてしまい、収量が激減する。
植物種は栽培種と同じ「イネ」である。	除草剤は水稻への安全性が高いため、雑草イネを防除することが難しい。
玄米が赤茶色を帯びている。	収穫物に混入すると等級低下の原因となる。

稲敷地域でも、ほ場内で発見される事例が多くなっており、産地全体の問題となりつつあります。

上記の特性から、通常の栽培方法では防除することが難しく、一株が翌年には数百株に増えてしまうため、早期発見と早期防除が重要です。発生が疑わしい際は、普及センターへご相談ください。



- ①成熟するとすぐに脱粒し、翌年の発生源となります。
- ②脱粒後は穂が立ち上がるため、見つけやすくなります。
- ③玄米が赤いため、混入すると等級が低下します。



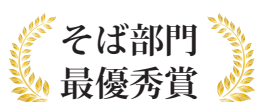
飼料用米多収日本で (農) 長戸北部営農組合が「農林水産大臣賞」受賞

農林水産省と（一社）日本飼料用米振興協会は、令和4年度飼料用米多収日本一を実施し、龍ヶ崎市の「農事組合法人長戸北部営農組合」が農林水産大臣賞を受賞しました。

長戸北部営農組合では、飼料用米専用品種である「オオナリ」と「北陸193号」を約32ha作付けしており、ドローンによる追肥の実施やカメムシ防除の徹底により、916kg/10aと地域平均を大きく上回る単収を達成しました。また、高密度播種育苗やドローン導入など、育苗から収穫までの一連の作業における省力化・コスト低減を徹底するだけでなく、地域の養豚業者に飼料用米を販売し、堆肥を農地へ還元するなど耕畜連携にも積極的に取り組んでおり、その生産性と持続性の高い経営が評価されました。受賞おめでとうございます。



長戸北部営農組合の皆さん



茨城県稲作・そば共進会 そば部門で 横張清彦氏が「最優秀賞」受賞



横張清彦氏(右から2番目)

令和4年度茨城県稲作・そば共進会で、阿見町の横張清彦氏がそば部門の最優秀賞を受賞しました。この共進会は茨城県農林振興公社が主催するもので、安定生産や品質向上、生産コストの低減、安全安心への配慮等を実践する生産者を優良事例として表彰しています。

横張氏は平成29年に「常陸秋そば」の栽培を開始し、毎年面積拡大を図ってきました。令和4年からは種子生産も開始し、一般そば3ha、採種用2haで高品質のそばを生産しています。また、播種から収穫までの機械化一貫体系により、経営の効率化を図っています。

さらに、令和4年度第34回全国そば優良生産表彰においてもその取組が評価され、全国農業協同組合中央会会長賞を受賞されました。おめでとうございます。

稲敷地域青年農業士会が「いなしきアグリカフェ」を開催

稲敷地域青年農業士会は、令和5年2月16日に江戸崎総合高等学校グリーンテクノ系列2年生との交流会「いなしきアグリカフェ」を開催しました。

いなしきアグリカフェは、地域の就農者の確保・育成を図るために平成27年から開催しており、3年ぶりの開催となりました。まず、青年農業士3名が就農までの経緯や自身の経営等について講話した後、班に分かれて意見交換を行いました。

青年農業士からは農業の面白さや苦勞、やりがいだけでなく、農業を通じて地域とのつながりや、農村社会を支えることの大切さを伝えていました。高校生からは具体的な栽培方法や販売先、経営を担うまでの過程など様々な質問が出され、活発な意見交換会となりました。



いなしきアグリカフェの様子

農業学園に参加してみませんか？

普及センターでは、農業を始めて間もない方等を対象に、農業の知識・技術習得を支援するための講座「農業学園」を開催しています。

スキルアップのための講座のほか、同年代の農業者と情報交換・交流できる貴重な機会にもなりますので、ぜひ御参加ください。

◆令和5年度 開催予定講座

月	内 容 (開催普及センター)
8	・有機農業・土壌講座 (土浦)
9	・れんこん講座 (土浦) ・ネギ講座 (つくば)
10	・農機メーカー視察講座 (稲敷)
11	・大田市場視察研修 (つくば)
12	・農作業安全講座 (稲敷)
1	・プロジェクト発表会 (土浦)
2	・水稻育苗講座 (稲敷)

【お問合せ先】

稲敷地域農業改良普及センター (担当: 藤田)
電話: 029-892-2934 FAX: 029-892-6684

農業大学の学生を募集しています

県立農業大学校では令和6年度入学生を募集しています。定員は農業部: 農学科40名、畜産学科10名、園芸部: 園芸学科30名です。

出願に関するお知らせはホームページに掲載されますので、詳しくはホームページを御確認ください。また、ブログでは農業大学校の日常が御覧いただけます。

◆入学願書の受付期間

◎推薦入試

令和5年10月2日(月)～10月20日(金)

◎一般入試 前期・研究科

令和5年11月13日(月)～12月8日(金)

◎一般入試 後期

令和6年1月29日(月)～2月20日(火)

ホームページ



ブログ



【お問合せ先】

茨城県立農業大学校
電話: 029-292-0010 FAX: 029-292-0903

いばらき農業アカデミーのお知らせ

茨城県では、農業技術や経営力向上を目指す方や、農業を志している方など、幅広い方を対象に「いばらき農業アカデミー」を開講しています。経営管理や生産・加工技術、先進技術など、目的に応じて自由に選択・受講することができます。

講座は順次開講しています。開講時期や内容、申込方法の詳細はホームページ、またはFacebookを御確認ください。



ホームページ



Facebook



【お問合せ先】

いばらき農業アカデミー事務局
電話: 0299-45-8321 FAX: 0299-45-8350